

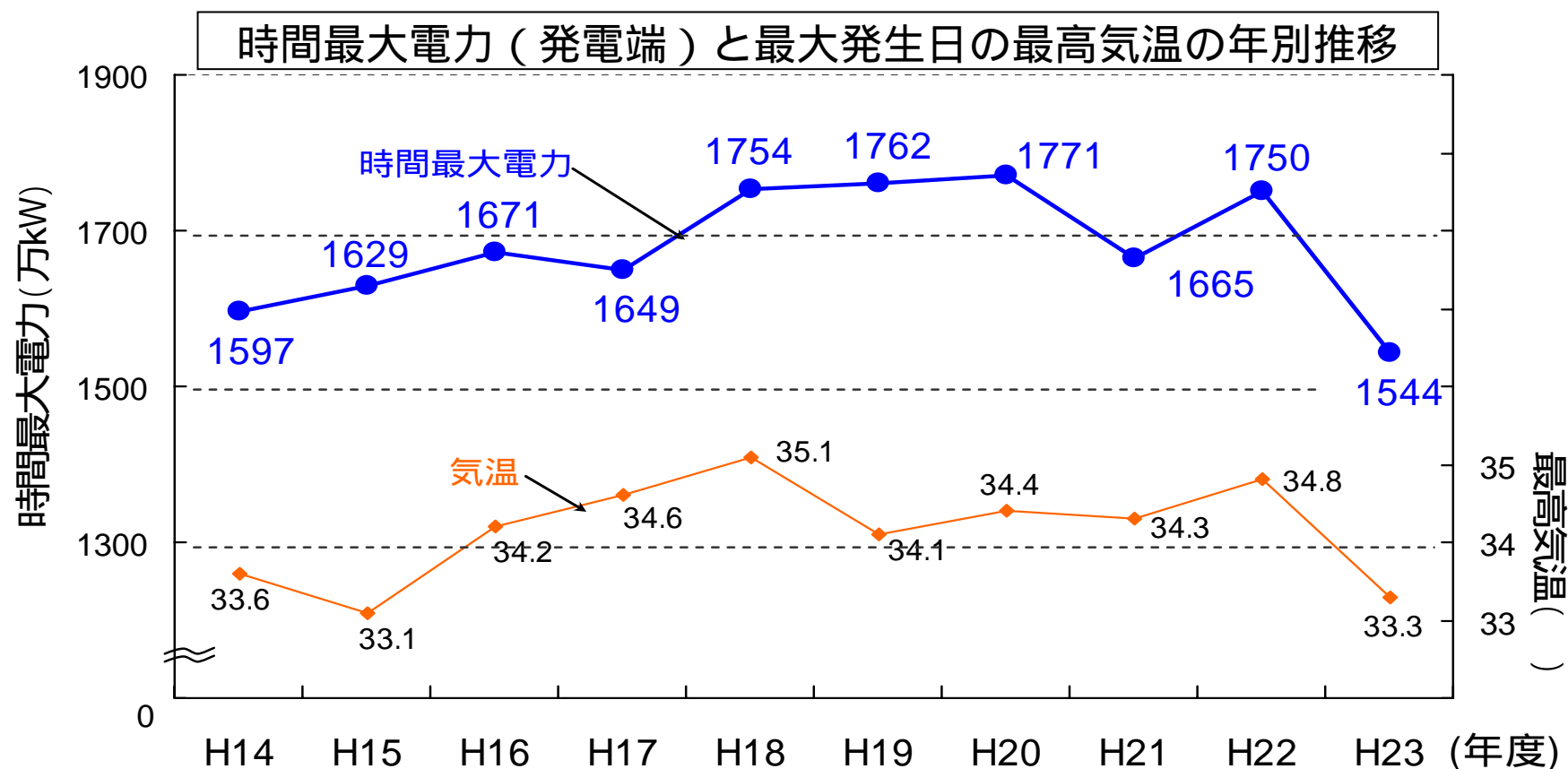
今夏の電力の供給力及び需要の見通しについて

平成24年4月23日
九州電力株式会社

1 今夏の電力需要について

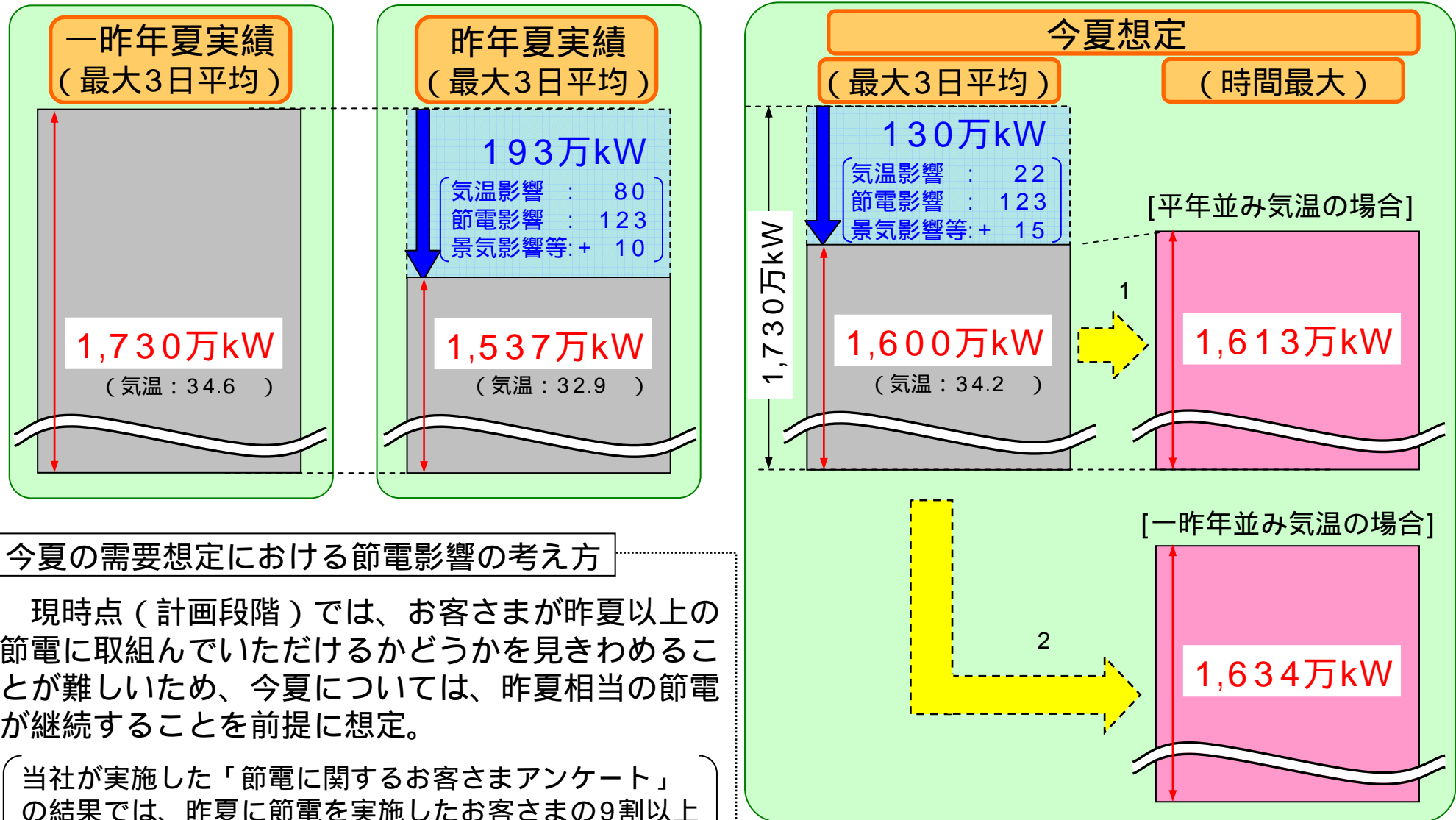
【電力需要の推移】

- 震災前の至近5カ年の時間最大電力は、平均1,700万kW台半ばで推移していたが、昨夏は1,544万kWと前年を大きく下回った。
- この要因は、九州全域で最高気温が前年を大きく下回り、高気温が一定期間継続しなかったことに加え、ご家庭、企業・自治体等、お客さまが節電に取り組んでいただいた結果と考えている。



夏季の気温感応度：気温1 あたり40～55万kW程度の需要変動となる

【今夏の電力需要の想定】



今夏の需要想定における節電影響の考え方

現時点 (計画段階) では、お客さまが昨夏以上の節電に取り組んでいただけるかどうかを見きわめることが難しいため、今夏については、昨夏相当の節電が継続することを前提に想定。

当社が実施した「節電に関するお客さまアンケート」の結果では、昨夏に節電を実施したお客さまの9割以上が今夏も節電に取り組むと回答。

1 過去5カ年の時間最大(H1)/最大3日平均(H3)比率により算出
2 一昨年の時間最大発生日 (H22.8.20) 並の気温により算出

現時点(計画段階)で対応可能なあらゆる供給力確保策を実施。

- 火力発電所の補修停止時期の調整（8月の補修はなし）
 - ・ これまでに石油火力5台の定期検査を今秋以降に延期（被災下申請¹）
 - ・ 新大分1号系列第1軸（10万kW）のガスタービン更新工事の延期
- 長期停止火力の再稼働
 - ・ H23年度末に廃止予定であった苅田新2号（37.5万kW、経年40年）の運転再開
- 緊急設置電源の設置
 - ・ 豊前発電所にディーゼル発電機（0.4万kW）を設置
 - ・ 離島の移動用発電設備（0.3万kW）の活用
- 火力燃料の追加調達（震災前の一昨年の約2倍を調達）
- 他社からの受電
 - ・ 他電力会社からの計画的融通の受電：昼間45万kW、夜間101万kW
 - ・ 自家発からの受電：昼間15万kW、夜間13万kW

など

1 「火力発電設備に係わる電気事業法施行規則第94条の2第3項第2号の運用」の「2- 」による定期事業者検査の12ヶ月延長

夏季計画調整契約の拡充や、ピーク需要抑制を促す新たな料金メニューの導入など、需要面からの対策を実施。

● 夏季計画調整契約の拡充

- ・ 現在、お客さまを個別訪問し、休日操業シフトや自家発稼動増による契約コンサルティングを実施中。

夏季までには、昨年並みの成約を目指す。

[今夏に向け実施予定の拡大策]

- ・ 大口お客さまの適用期間拡大：6～9月（従来：7～9月）
- ・ 小口お客さまへの適用対象拡大：300kW以上（従来：500kW以上）

● 更なる需要抑制メニューの実施

- ・ 大口お客さま：需給ひっ迫が予想される場合の事前通知による負荷調整メニュー
- ・ 小口お客さま：デマンド抑制に対する割引メニュー
- ・ 低圧お客さま：ピーク料金設定による負荷抑制効果の実証試験を実施

4 原子力の再起動がないとした場合の需給バランス

(万kW)

	2012年夏見通し(8月)		
	2010年 夏実績相当	節電あり・ 2010年並み の猛暑	節電あり・ 平年並み気温
供給力 - 需要 (予備率)	212 (12.1)	60 (3.7)	9 (0.6)
需要	1,750	1,634	1,613
供給力(合計)	1,538	1,574	1,622
原子力	0	0	0
火力	1,245	1,245	1,245
水力	110	110	110
揚水	113	150	198
地熱等	23	23	23
融通等	47	47	47

(注) 四捨五入の関係で合計値が合わないことがある